

沈 月華
(Sheng Yuehua)



中国福利会国際和平婦幼保健院 主任医師

中国福利会国際和平婦幼保健院主任医師、上海第二医科大学教授。中華周産期学会全国委員、上海周産期学会顧問、上海小児科学会新生児学顧問。

主な研究分野：周産期保健、優生優育指導、乳幼児健康教育。

1967年上海第二医科大学卒業、臨床医学に長年従事。1980年から新生児・周産期保健優生優育諮問に従事。1989-1990年、日本北里大学病院NICUで研修し、第1回国際周産期学会に出席。新生児生理経線正常値に関する研究をし、中国衛生部科学研究成果賞を受賞。妊娠期栄養と血液についての研究では、『妊産婦栄養と四季レシピ』の編著に参加。

発表した主な論文：「新生児生後72時間のPDA血流」、「四つ子の周産期管理と日中新生児治療の比較」、「三つの食事方法による乳幼児発育に関する影響」など。中華周産期学会とジョンソン&ジョンソンに東南アジア「ベビータッチ大使」と任命され、数々の実践と研究を担当。「ベビータッチによる乳幼児発達の影響」など、多数の論文を発表。

ベビーマッサージとアタッチメントについての研究

乳児の初期の発達において、ベビーマッサージは、その独特な効果のために大変注目されている。本研究は、実験の方法により、11～13ヶ月（平均年齢12ヶ月）の、出生後すぐにベビータッチを受けた30名の乳児と、ベビータッチを受けたことのない30名の同年齢の乳児を対象として、比較研究を行った。

本実験は、「ストレンジ場面」実験と「瓶の中のおもちゃ」実験の2つの実験から構成されている。

1つ目は、エインズワース (M.Ainsworth) の「ストレンジ場面」実験 (Experiment of Stranger Situation) を参考にしたもので、二組の乳児のアタッチメントのタイプを観測し、安定型アタッチメントの割合について比較を行った。

2つ目は、アイゼンバーグ (N.Eisenberg) のシリーズ実験の中の、「瓶の中のおもちゃ」を参考にしたものである。この実験は、二組の乳児が「おもちゃを奪われた」あとの感情コントロールの行動表現を調べ、それに、二組の乳児におけるネガティブな気持ちを抑制できる割合について比較を行った。

得られた結果は以下の通りであった。

1. 「ベビーマッサージ有り」グループの安定型に関連する行動の平均発生率は、「ベビーマッサージなし」グループよりはるかに高い。回避型に関連する行動と矛盾型に関連する行動の平均発生率はどちらも「ベビーマッサージなし」グループより低く、特に矛盾型に関連行動の平均発生率の差が大きい。

2. 「ベビーマッサージ有り」グループは、表情面と行動面のどちらにおいても、「ベビーマッサージなし」グループよりも積極的である。つまり、お気に入りのおもちゃを奪われたあとの感情コントロール能力がより高い。

3. 乳児の安定型の愛着行動と感情コントロールの間には強い正の相関関係があり、回避型の愛着行動および矛盾型の愛着行動と感情コントロールの間には負の相関関係があった。

以上の結果は、本研究の仮説、即ち、ベビーマッサージは乳児の安定型の愛着行動の形成を促し、安定型の愛着行動の乳児は、より高い感情コントロール能力を持つという仮説を支持した。